



©Ludwig Olah



バリトン レヴァント・バキルチ

アンカラ生まれ。2018年9月までアンサンブル・メンバーとしてニュルンベルク州立劇場に所属し、《真珠採り》ズルガ、《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、《ラ・ボエーム》マルチェッロ、《フィガロの結婚》アルマヴィーヴァ伯爵、《カルメン》エスカミーリョ、《魔笛》パパゲーノ、《アルジェのイタリア女》タッデオなどを歌う。

2018年にルイーダ・ダッラピッコラ《囚われ人》のタイトルロールでフィレンツェ五月音楽祭にデビュー。2019年も同音楽祭に出演し、ファビオ・ルイーダの指揮でアリベルト・ライマン《リア》のグロスター伯爵を歌っており、さらに2020年もズービン・メータの指揮で《フィデリオ》のピツァロを歌う。

このほか最近の出演は、チリ・サンティアゴ市立劇場で《ドン・ジョヴァンニ》タイトルロール、パルマ・ヴェルディ・フェスティバルで《王国の一日》ケルバール男爵など。また、トゥールーズ・キャピトル劇場、ポーランド国立歌劇場、シュトゥットガルト州立歌劇場、トリエステ・ヴェルディ劇場、ミュンヘン放送管弦楽団にも出演している。